

# 第20回あわじ耳の日のつと 兼淡路聴覚障害者センター20周年記念式典

150人を超える参加者で



## ふくろう新聞

<発行>

特別養護老人ホーム  
淡路ふくろうの郷  
広報委員会

洲本市中川原町中川原 28 番地 1  
TEL: 0799-25-8550  
FAX: 0799-25-8551  
ホームページ

<http://hyoufuku.main.jp/fukurou/>

3月5日(日)第20回あわじ耳の日の集い兼淡路聴覚障害者センター20周年記念大会が洲本市総合福祉会館で開催され、淡路医師会の協力による耳の相談やこども手話教室、島内作業所によるバザーで賑わいました。淡路ふくろうの郷からも入所者、職員20名が参加し、集いを楽しみました。

当日は淡路県民局長、島内3市の市長、議員さんなど多数ご臨席いただき、聴覚障害者問題特に現在進められている手話言語条例についても大いに関心をもっていただいていることことに、本当に心強く思いました。

集いでは、淡路聴覚障害者協会から、

1. 洲本市のコミュニケーション条例名に「手話言語」を明記してほしい
2. 「障害者、支援者その他の関係者の意見を聞くための協議の場を設けなければならない」としてください
3. 「必要な財政上の措置を講ずるものとする」としてくださるとアピールが行われました。



あわじ耳の日の集いの式典に先立って三原ライオンズクラブより淡路聴覚障害者協会に液晶プロシエクター、スクリーンなどの贈呈式が行われました。ライオンズクラブとはこれまで耳の日の集いを共催したり、行事の呼びかけ、参加など、数々のご協力をいただいております。今後ともよき関係を継続していけますよう。

### 「げんきやったか」と 声を掛け合い

ふくろうの郷で

独居老人食事を開かれる

2月22日(水)中川原民生児童委員会主催で中川原地域の独居老人食事がふくろうの郷で開催されました。民生委員が改選され、初めての顔合わせもかねての食事で、地域の1人暮らしの高齢者8人と民生委員合わせて15人が参加され、ふくろうの郷からは入居者、職員あわせて14人が参加しました。

まずはお互いの自己紹介から始まり、入居者の山崎さんの被爆体験の話に参加者は自分の体験を重ねられたのか、深くうなずかれました。

食事は、菜の花ごはんや地



▲食事を楽しみながら歓談する参加者

元野菜を使ったあえ物など季節感のあるもの味わっていただきました。参加された一人暮らしの方は「ひさしぶりやのう」「元気だったか」など出合いを喜び、地元のお話で盛り上がっていました。

和やかに歓談しながら食事をしていただいている様子を見て、ふくろうの郷として今後も地域の人たちのつながりをさらに作っていきける場になるよう取り組みを考えていきたいと思いましたが。

# 笑顔で暮らせるよう 語り継ぐ思い受け止め

2月1日、奈良県大和郡山市へ入居者の黒崎さん、勝楽さんが出前講座に行かれまし  
た。大和郡山市社会福祉協議会  
から、毎年実施している聴覚障  
害者向け福祉サロンで「ろう者  
の戦争体験を是非聞きたい」と



▶お二人の人生の語りを熱心に聞かれます

の声があつたのでと依頼を受  
けて実現しました。お話を聞  
かれた聴覚障害者向け福祉  
サロンの「ハッピーフクロ  
ウ」の皆さまから感想のお手  
紙を頂きましたのでご紹介  
いたします。  
『先日はお忙しい中、また遠  
いところ、大和郡山市までお越  
しいただきまして、大矢様、黒  
崎様、勝楽様ありがとうございました。』

黒崎様、勝楽様  
は貴重なお話を聞か  
せて頂きました。戦  
争による苦しい生  
活、ろうあ者をはじ  
めとする障害者に対  
しての差別が厳しい  
社会の中で、必死に  
生きてこられた事実  
を知ることができて  
良かったと思うとと  
もに、怒りがこみ上  
がってきました。苦  
しい思いを語ってく  
ださったことをしっ

## 父さんのことばを受け止めて…

2月15日に亡くなられた平哲也様の奥様がお葬式の時にお別  
れの言葉を述べられました。奥様にご了承いただいて掲載いたし  
ます。

海有り、山有り。施設ってなんとすばらしい所でしょうか。この  
地で暮らした父さんはなんと幸せなんだろう。

2月5日に来た時に、父さんの前より弱っている姿を見ました。  
父さんの目を見て「私が誰だかわかりますか?」と聞くと、(普段  
は手話で話しますが)動かない体の代わりに口で私に「アイコ、ア  
イコ」と言い返した。これが最後の言葉でした。余命は長くないと  
のことは承知しておりました。15日の朝に亡くなったとの知ら  
せを受け、信じられないほどあっけなく感じました。「もうこの世  
にいないんだ」と。

私は妻として父さんの言っていた言葉を受け留めます。亡くな  
る前に「ほねは墓に入れないで海へ流して」と言ったから、いつか  
ほねは海に流すことを約束します。

今、82才の生涯を終えて神のところに召されました。平安の中  
におねむり下さい。神のなぐさめがあなたの上に有りますように。  
そして残された息子、娘夫婦、孫たち、兄さんは父さんの分まで生  
きてください。

最後にお世話になった施設の皆さま、本当にありがとうございました。

かりと受け止め、私たちにで  
きることは何か、どのように  
すればひとりひとりの尊厳  
が守られるのか考えていき  
たいと感じました。

苦しい思いを乗り越えて  
笑顔で生活されている様子  
を見せていただき、「ひとり  
ひとりを大切に」を実現され  
ている淡路ふくろうの郷  
は素晴らしいと思いま  
す。是非見学に行かせて  
いただきたいと思います  
ました。私たちも、大和  
郡山市に住む聴覚障害者  
の皆さまが笑顔で暮らせ  
るよう、活動内容を考え  
ていきたいです。』



▲講演後、自分史のDVDにサインをする黒崎さん

# ふくろう物語

## 広島 彰様

平成28年12月に入居された広島彰様は現在66歳です。  
**入居前の生活**

**病気が重く入退院の繰返し**  
神戸聾学校を卒業後、タオルの印刷会社に就職し、定年まで働きました。30歳頃に結婚、明石にマンションを購入され、昨年8月に奥様を亡くされるまで、夫婦で助け合っ



▲回転寿司で嬉しそうに食べる広島さん

て暮らしてきました。広島様の病気が4年ほど前から重くなり、入退院を繰り返されてきました。透析が必要な状態でしたが、奥様も本人も拒んでいました。

病気になったところから、弟様の支援が始まりました。

「死んでもいいからふくろうに入りたい」の気持ちを受け止め

奥様が亡くなられて1カ月後に入院となりました。医師からは、今後在宅での生活は難しいといわれました。今後の生活について心配していたところ、支援者からふくろうの郷があることを聞き、本人も入居したいとの思いをもたれました。そして弟様からの連絡で関わりが始まりました。

「淡路ふくろうの郷に入りたい」という強い気持ちをお聞きして入居に向けて準備を始めましたが、入居後の透析を受ける病院が見つかりませんでした。弟様との相談を重ねる中で、「透析できる病院がなければ、すぐに亡くなってもいいから透析をせずに入居を考えた」との言葉を聞きました。ふくろうの郷もどのような状況になっても受け入れようと相談を重ねていきました。そして、

入院先の病院の協力もあり、送迎もして下さる透析の受け入れ病院が見つかり、ようやくご本人の気持ちに応えることができました。

### ふくろうの郷での生活 週3回透析に通いながら

入居してから慣れていない環境というのもあり、声をかけても機嫌が悪く立腹されることも多くありました。しかし、日が経つにつれて、ろうの入居者とお話をされる様子も見られるようになり、本人も楽しく過ごせるようになりました。そして、本人は話すことが大好きな様子でいつも楽しそうに話をしてくれます。

入所後から透析に週3回通っています。透析後はしんどい様で、帰るとお部屋で寝ておられます。毎朝夕の血圧測定時に高数値が出ると「ああ。高いなあ」と話され、落胆されています。その姿を見ると職員もその気持ちを少しでも緩和できるように努めていきたいと痛感させられます。



▲職員と手話で楽しく会話

### 食事について

広島様は、透析治療のため食事制限・水分制限もあります。食事されると「これはまじい」と立腹される様子が多くなり、あまり食べてもらえない日が続きました。

調理職員がユニットに行ったときに「ご飯まじい。前の病院の方が美味しかった」と言われました。何がまずかったのか聞くと、「辛い。塩辛いから美味しくない」と。広島さんは医者からの指示により、食事は他の方よりも塩分が少なくなっています。味は薄いはずなのですが、ご本人は辛いということに不思議に思いました。調理職員で煮

詰めすぎたから辛くなったのかも話し合い、調理の際は気を付けました。

### 美味しく食べたい!!

ある日、広島様から「汁が飲みたい」と言われました。水分制限があり、お汁は朝食だけしかついていなかったためです。医者の指示のため出せないというところ、「医者のこととは聞かなくてもいい。死んでもいいから汁を飲みたい」と強く言われました。そこで、医者とも相談した結果、水分制限が少し緩くなり、3食にお汁をつけることができようになりました。そのおかげか、「食事はどれもおいしかった。全部食べたよ」と笑顔でお話してくるようになりました。おいしく食べられるようになり、嬉しい様です。

「美味しいものを食べて、楽しくお喋りして過ごす」ということが広島様の夢です。



▲6名を代表して大矢理事長より表彰される吉川職員(写真中央)

### 20周年記念大会開催

あわじ耳の日と同時開催されたセンター20周年記念大会では、永年勤続者の表彰も行われ、吉川稔、延命寺栄美、藤本美保子、岡本久子、竹内美菜子の6名の職員が表彰されました。

**淡路聴覚障害者センター**  
 センター便り

洲本市港2-26  
 洲本市健康福祉館3階

### 20年の時を経て変わったもの



▲講演いただいた松本晶行氏

記念講演はろう者で弁護士松本晶行氏に「障害が障害でなくなる時」というテーマで講演いただきました。松本氏は第1回あわじ耳の日の集いに同じテーマで講演いただいており、当時と比べると法的な面は整備されつつもまだまだ差別事象は残っている。組織を強くし、みんなと考え続けることが大事だとしめくられました。

### それぞれのあゆみを語りあう

交流会では「20年を振り返り



### 記念誌が完成しました

これまでのセンターのあゆみや現在の事業、設立の際にご尽力いただいた方の座談会の様子、これからセンターが目指すものなど盛りだくさんの内容となっています。お問い合わせはセンターまで。



▲難聴者の方々も要約筆記者を交えて話はずみです。

り、思い出を語り合いながら交流しました。この日ご参加いただいた方、またこれまで支えてこられた方々のおかげで設立20周年を迎えることができました。健聴者は家族に相談するということを改めて感じ、今後聴覚障害者の生活がさらに充実したものとなるよう取り組みたいと思います。

### くらしと地域の「拠点」を考える

2/12 4団体合同研修会 広田地区公民館

2月12日、4団体合同研修会があり淡聴協・サークル・通研会員、法人職員・各市会議員等43名が参加しました。

### 困った時、だれに相談しますか？

午前中はグループワークで「困ったとき、誰に相談するか」など普段の生活の中で困ったなと思う時にどのように解決しているかを話し合いました。健聴者は家族に相談するという方が多く、一方でろう者は家族とは手話でコミュニケーションがとれないので、センターやサークル会員に相談

する。しかし、もっと身近に集え、何でも気兼ねなく話せる場が欲しいという意見がありました。また、今後は聞こえない夫婦が聞こえる両親の(その逆も)介護問題について不安があるとの話もできました。

### 地域で生きるということ

午後からは大谷大学教授志藤修史氏より「地域で生きる 拠点を創る」というテーマで講演いただきました。

「3年前に兵聴協が取り組んだ聴覚障害者の生活実態調査の結果から引越越しを繰り返したり、近所づきあいができない、また一番深刻な悩みで賃金の事など悩みを抱えている人が相談場所が限られている。人は生活するうえでたくさん決めていかなければいけないことがでてくる。決めるには色々な選択肢が必要で、その選択できる情報を得られる場が必要」と話されました。

「今日の講演をお聞きして、改めて聴覚障害者が暮らしやすい環境作りを考えていきたいと思いました」と手話サークル会員の小西幸子さんは感想を述べられました。



▲「困った時はだれに相談する」「近くに集まる場がほしいね」と話し合う

# 中川原わくわくフリーマーケット 開催決定！！

日時：平成29年4月16日(日) 10:00~16:00(雨天中止)

場所：中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンター

主催：中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンター

後援：洲本市・洲本市社会福祉協議会(予定)

協力：中川原連合町内会、淡路ふくろうの郷



## 中川原高齢者・障がい者地域

### ふれあいセンター



〒656-0002

兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2

## 新入職員の紹介

2月1日より、居宅介護支援事業所「桜が丘」に介護支援専門員(ケアマネジャー)として入職いたしました萩原孝と申します。

介護保険の手続きや介護保険サービス(デイサービス

やりハビリ、手すりの取り付け等)に関するご相談等、在宅生活にお困りの場合は是非ご連絡いただければと思います。まだまだ働き盛りの40代です!皆様のお力になるよう頑張つてまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。(萩原 孝)

## 中川原高齢者・障がい者地域ふれあいセンター 2017年度事業方針(案)

「地域とともに歩み、高齢者・障がい者・子どもにとって優しく、生き甲斐と安心が感じられる、活力とふれあいに満ちた地域社会の実現を」を理念に事業を行います。

### (1) 人と人とのつながりを大切にしたい運営

各部署とも新規採用、異動に伴う職員体制の変化があります。なぜふれあいセンターが誕生したのか?地域との関係は?等理解してもらい、各事業所に所属しながらも「ふれあいセンター」の一員として地域の方とのつながりを大切にしてもらうようすすめます。

### (2) 多世代交流・多機能型事業

(3) 中川原スマートICと連動した法人独自の「地域包括ケアシステム」の構築を目指す。

今年度は、①フリーマーケット開催、②ふれあい販売所、③さくら食堂の試行実施、開設等を進めていきます。それにより個人に対しては「やりがい」「いきがい」作りを、地域全体に対しては「活性化」の一助となるよう進めます。

## 神戸に聴覚障害者が 切望する事業拡充を

共同作業所神戸ろうあハウス  
神戸ろうあハウス  
デイサービス

神戸では、聴覚障害者のニーズに対応できる、さまざまに社会資源を確保したいという思いから、神戸聴覚障害者施設建設委員会(以下建設委員会)が発足し、その中でも現在実施している神戸ろうあハウスの移転が緊急課題であり、その実現に向けての具体的な第一歩として、神戸の二つの事業の経営を、社会福祉法人ひょうご聴覚障害者福祉事業協会(以下法人)に移行しました。

以降、法人、NPO法人神戸ろう協、建設委員の方々と協同で、移転先の確保に努めてきました。神戸市との相談、建設委員会での検討など、一步一步積み重ね神戸市から兵庫区内に移転先の斡旋を受ける一方で、今年の2月には、事業拡充の夢に向かって新たに土地を確保することができました。



(野村・眞木)

課題はまだまだ山積みですが、家族の方から「土地の契約が無事に終了し、移転が現実化してきて、本当にホッと



# 続々・地域を語る

## 中川原むかし話

かるた 口説き

NO32

北 岡 肇

### へ 遍路さんでにぎわう

#### 初夏の中川原

初夏の訪れと共に、5月の淡路島は、巡礼さんの季節を迎えます。淡路西国三十三ヶ所、淡路四国八十八ヶ所、淡路49薬師めぐりなどがあります。

左手に鈴、右手に鉦をもち、むかしから伝わる巡礼衣装を身につけ蓮華の花咲く野原の道を、谷を越え、山を越え、川を渡って、あちらの寺からこちらの寺へ札所を巡り、ご詠歌や和賛、詠歌おどりなどを奉納し、お接待を受けながら、ご先祖様の供養と信仰をかねた巡礼さんの姿が目立ちます。

巡礼さんの始まりについて「淡路巡礼は室町末期の文明7年(1475)淡路守護職、細川成春によって始められたとし、永正10年(1513)阿万上本庄の城主、郷丹波(後?)守、重朝の内室が和歌の師範である秀喜尼と一緒に巡礼したのにはじまるともいわれている。淡路巡礼で最も古い歴史を持ち、島民

に親しまれてきたのが、淡路西国三十三ヶ所霊場めぐりである。江戸時代になると、霊場記や案内記も出版され、信仰と見物遊山をかねて若者男女を問わず巡礼にできるようになった。

(武田信一著 淡路巡礼より)

淡路巡礼は戦前までは、5月の初め八十八夜に旅立ち、約10日ばかりで島各地の札所(寺院)を回ったが、最近では乗用車やマイクロバスを利用する人が多く、5月の中ごろに集中している。高野山金剛講、淡路本部では、毎年「全国奉詠舞踏大会」が開催され、島内をはじめ、和歌山、大阪など近畿各地からも参加が目立ち、開催も1日ではとても終ることができず2日続けて開催されることもある。(5月13日)

(おことわり)

お遍路さんは通称、四国八十八ヶ所参りをされていますが、「こゝろ」いろはかるた」では巡礼さんと呼称しています。



共感と感動をともに実践に  
いかしていきましょう

## 職員募集

生活支援員・看護師  
調理員・ケアマネジャー

(詳細は淡路ふくろうの郷  
総務部 0799-25-8550 橋詰まで)



【職員からのメッセージ】

私は入社して2年目になります。入った時は介護も手話も経験がなく不安でしたが、職員同士仲が良く現場の雰囲気も良いので楽しく学ぶことができました。私は介護をする中で笑顔を最も大切にしています。私が笑顔でいることはもちろん、入居者の皆さんが笑顔になったり、職員同士が笑顔になるようなコミュニケーションを大切にしています。介護施設というのは人生の最期を過ごす場所であり、明るいことばかりではありませんが、入居者の皆さんが人生の最期を楽しく笑って過ごせるよう冗談も言い、時には「あほ!(笑)」と言われながら、楽しい雰囲気作りに力を入れています。笑顔に自信のある方、人を楽しませるのが好きな方、ぜひとも一緒に働きましょう!

いつも  
ご支援  
ありがとうございます。  
ございます。



ふくろう募金が  
1,136,451円となりました。  
前回より25,881円の  
増額です。

### 3月・4月 ふくろうの暮らし

- 3月18日 中川原交流会  
手話講座
- 3月21日 絵てがみ講座
- 3月24日 料理講座
- 3月25日 理事会・評議員会
- 4月3日 辞令交付式  
新任職員研修
- 4月9日 中川原だんじり
- 4月18日 入居者懇談会